

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅱ
児 童 4年3組 男子14名 女子20名 計34名
指導者 浅野 祐子

- 1 単元名 物語を読んで、心に残ったことを感想文に書き、伝え合おう
中核教材：「プラタナスの木」
補助教材：「雨やどりはすべり台の下で」 他

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、「C 読むこと」の指導事項ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」及び、指導事項オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」について主に扱い、主となる目標を「物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などとどう関連しているのかを明らかにしながら交流し合い、一人一人の感じ方に違いのあることに気付くことができる。」と設定した。

中核教材「プラタナスの木」は、マーチンを中心とする4人組が、公園で出会ったおじいさんの話を聞いて、自然に対する考え方が変化していく物語である。切り株だけになってしまったプラタナスの根を、自分たちが支えていくというマーチン達の発想や自然の力強さに感動したりするなど、様々な観点から感想をもつことのできる教材である。

本学年で感想を交流し、感じ方の違いに気付く学習をすることは、第5学年での文章を読み自分の考えを広げたり深めたりする学習へとつながっていく。

(2) 児童について

児童は、これまでに「白いぼうし」、「一つの花」、「ごんぎつね」の3つの文学的文章の学習を通して、登場人物の行動や会話に着目しながら人柄や気持ちを読み取ること、題名や特別な言葉を意識しながら物語を読むこと、場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化を想像したり、感想を交流し合ったりする学習をしてきている。児童は、いくつかの観点に沿って物語を読み進めることができるようになってきているが、どの叙述に基づいているのかを説明したり、自分の考えを書いたりすることは個人差が大きい。

本単元では、文章を引用したり自分の経験などと比べたりしながら、叙述に着目させたり自分の考えをもたせたりしていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、「物語を読んだ感想を交流し、一人一人の感じ方の違いに気付く力」を身に付けるために、感想文を書き、それを交流する言語活動を位置付ける。自分の考えを書く際には、感想の根拠となる叙述を見つけて引用したり、登場人物と自分の経験などを比べたりしながら読む学習を行い、感想につなげていく。最後に、感想文を交流し合い、自分と友達との感じ方の違いに気付かせることで、作品への読みを深めていきたい。

授業の導入時には、学習計画表により本時の学習の位置付けについて確認し、見通しをもたせる。さらに学習過程カードで本時の学習の流れを確認し、本時の課題解決がどのように行われるのかについて見通しをもたせることで学習意欲を高めたい。

さらに、終末時には学習の方法と内容を振り返りカードに記入することで、物語を読んで感想文を書く学習の進め方を理解させていきたい。

3 単元の目標

- 物語を読み、作品の好きなところや心がひかれるところを見つけながら、感想を述べようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などとどう関連しているのかを明らかにしながら交流し合い、一人一人の感じ方に違いのあることに気付くことができる。
【読むこと】
- 情景を表す言葉や表現を見つけることができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導計画 (物語を読んで、心に残ったことを感想文に書き、伝え合おう：9時間扱い 本時5/9)

次	時間	学 習 活 動
一	1	単元の学習課題を確認し、学習計画を立てる。
二	6	登場人物の心情の変化や場面の移り変わり、出来事を捉える。 「初め」「中」「終わり」の組み立てで感想文を書く。 感想文を読み合い、感想を交流する。 情景を表す言葉や表現を見つける。 (本時 第4時)
三	2	自分の紹介したい本の感想文を書く。 感想文を読み合い、感想を交流する。

5 本時の指導について

(1) 目標

感想の根拠となる叙述を引用したり、自分の経験などと比べたりしながら、感想の中心になることをまとめることができる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
読む能力	物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などとどう関連しているのかを明らかにしながら、感想の中心になることをまとめている。	書き方の例を示し、感想の中心をまとめる手順を知らせる。

(3) 指導の構想

感想文のモデルを提示し、本時の学習が感想文の「中」の部分につながることを確かめ、本時の学習と単元の学習に見通しをもたせる。(見通す)

感想文は、文章を引用したり自分の経験などと比べて書いたりすることで、考えがよく伝わることを理解させる。(振り返る)

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入 5分	1. 前時の学習を想起し、本時の学習内容を確認する。	全	☆単元の目標を振り返り、本時の学習の位置付けについて見通しをもたせる。
	2. 本時の学習課題を把握する。	全	☆感想文のモデルを提示し、本時の学習が感想文の「中」の部分につながることを確かめる。
「プラタナスの木」を読んで、心に一番残ったことを、自分とくらべながら200字くらいでまとめよう。			
展開 33分	3. 課題解決の見通しをもつ。	全	○学習の進め方について学習過程カードで確認する。 ☆感想文のモデルをもとに、感想の中心をまとめる手順を確かめ、見通しをもたせる。
	4. 課題を解決する。 (1) 感想の中心になることをまとめる。 ①感想の根拠となる叙述を引用したり要約したりして書く。 ②自分の経験などと比べて書く。	個	○引用したり、要約したりするときに使いたい表現を示す。 ○自分の経験を書くときに使いたい表現を示す。
	(2) 書いた文をペアで交流する。 (3) 学級全体で発表し合う。	ペア 全	☆感想の根拠となった叙述を書き出しているか、自分の経験などと比べて書いているのかを確かめさせる。 ●【読むこと】 文章を引用したり、自分の経験などと比べたりしながら、感想の中心を200字程度でまとめている。(記述)
終末 7分	5. 本時のまとめをする。	全	○感想文では、感想の根拠となる文章を引用したり自分の経験などと比べて書いたりすることで、心に一番残ったことや感じたことが伝わることをまとめさせる。
	6. 学習を振り返る。	個	☆板書をもとに、本時の学習の内容と方法を振り返らせる。
「プラタナスの木」を読んで、心に一番残ったことを、自分とくらべながら200字くらいでまとめることができた。文章を引用したり、自分とくらべながら感想を書いたりすると考えが伝わりやすいことがわかった。自分の感想文を書くときにも使いたい。			
	7. 次時の見通しをもつ。	全	○次の時間には、本時にまとめたものを使って感想文を書くことを確認し、意欲をもたせる。